分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	在宅看護論　在宅看護対象論	1 時間数 15	2 学年 1 学期	非常勤講師（看護師）
授業概要	在宅看護の現状・法的整備、新しい施策の中での他職種との連携・協働の必要性と、その中で在宅看護が果たす役割、在宅看護の提供される場とその広がりについて、在宅療養者および家族の QOL に視点を置きながら、その考え方を学ぶ。			
授業目標	1．療養者・障害者が在宅で生活する意味を理解し、在宅看護の対象となる人々の特徴を理解する。 2．継続看護を含めた在宅ケアを支える制度や他職種の役割が理解できる。 3．在宅看護を望む人々に必要な援助を提供するための訪問看護の機能と役割を学ぶ。			

回数	授 業 内 容	担当者
第 1～4 回	1．在宅看護の目的・特徴と在宅看護の対象者・在宅療養支援 1）在宅看護のめざすもの 2）在宅看護における看護師の役割 3）対象者の特徴 4）住まい方と健康 5）家族 6）在宅看護の基本となるもの 2．在宅看護に関る法令・制度と地域包括支援センターの活用 1）地域包括ケアシステム 2）地域包括支援センターの役割 3）ネットワーク作り、地域ケア会議、権利保障 3．在宅看護に関わる法令・制度と訪問看護師の活用 1）訪問看護の制度 2）訪問看護サービスの提供 3）介護保険制度・医療保険制度における多職種連携の違い 4）障がい者総合支援法等いろいろな制度における職種の違い	第 1～4 回
第 5 ～7 回	4．在宅看護にかかわる法令・制度とケアマネジャーの活用 1）介護保険制度 2）ケアマネジメントと社会資源の活用 3）地域における多職種連携	第 5～7 回 第 8 回
第 8 回	5．試験（45 分）	
自己学習	家族社会学の内容を復習して臨む 24 時間 TV など障害を持ちながら地域で生活している方の情報を得て臨む	
テキスト	系統看護学講座　在宅看護論 新看護観察のキーポイントシリーズ　在宅看護	
参考図書	みんないきいき介護保険（金沢市パンフレット）	
評価方法	筆記試験 100%（1～6 回 60%、5～740%）	
備考		

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	在宅看護論　在宅援助論Ⅰ	1 時間数 30	2学年 2学期	専任教員（保健師） 非常勤講師（看護師）

授業概要	一単位の家族を対照とした在宅看護（訪問看護）を行うにあたって必要な看護技術を学ぶ。 場の変化により、安全な援助を行う為に必要な技術について学ぶ
授業目標	1．在宅看護の特徴を理解し、観察の視点とアセスメントの方法を理解する。 2．基礎看護技術をふまえ、日常生活を中心とした在宅における援助の基本について学ぶ。

回数	授 業 内 容	担当者
第1～4 回	1．在宅における看護活動としての訪問看護 2．在宅療養者の暮らしの観察 1）住まい環境　2）介護状況　3）感染予防　4）事故防止 5）災害に対する準備と対応 3．在宅看護技術 1）在宅看護の活動を支えるコミュニケーション 2）在宅で求められる看護技術 (1)呼吸　(2)食生活・嚥下　(3)排泄　(4)移動　(5)清潔	第1回 ～4回
第5～7回	4.在宅における医療管理を要する人の看護 1）褥瘡予防とケア　　ブレーデンスケール、ラップ療法 2）尿道留置カテーテル 3）ストーマ 4）中心静脈栄養、経管栄養、皮下点滴 5）在宅酸素療法（HOT）	第5回 ～7回
第8～ 14回	5．在宅看護過程と演習 1）在宅療養のプロセスを踏まえたアセスメント 2）家族を理解する為の基礎理論を踏まえたアセスメント 3）訪問マナーの実際（演習）	第8回 ～15回
第15回	6．試験（60分）・講義（30分）	

自己学習	
テキスト	系統看護学講座　在宅看護論 新看護観察のキーポイントシリーズ　在宅看護
参考図書	みんないきいき介護保険（金沢市パンフレット）
評価方法	筆記試験およびレポート （竹村講師30%、本庄講師20%、小西講師50%）
備考	
実務経験との関連	健康福祉センターでの保健師としての経験を活かし、具体的な事例を用いて講義を行います。訪問看護ステーションに勤務する看護師が実践に即した方法を講義します。

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	在宅看護論　在宅援助論Ⅱ	1 時間数 ３０	2 学年 2 学期	専任教員（保健師） 非常勤講師（看護師）

授業概要	在宅看護対象論・援助論Ⅰで学んだことを想起しながら、いろいろな疾患を持つ療養者への在宅看護の実際、アセスメントの仕方を学ぶ 場が変わることでのリスクマネジメント・家族支援、緊急時の対応、生活の維持・向上に向けた援助、療養者・家族の価値観に基づく看護を学ぶ
授業目標	１．ライフステージ別の在宅療養者（児）の観察と看護が理解できる

回数	授 業 内 容	担当者
第 1～4 回	１.高齢期にある在宅療養者の観察と看護 １）高齢者の在宅療養生活の全体をアセスメントする ２）脳梗塞を有する事例 ２．成人期にある在宅療養者の観察と看護 １）成人の在宅療養生活の全体をアセスメントする ２）医療・保健・福祉制度を利用して在宅療養を組み立てる ３）脊髄損傷を有する事例	1～4 回
第 5～9 回	３．在宅療養児の観察と看護 １）小児の在宅療養生活全体をアセスメントする ２）神経難病の療養者の支援に必要な呼吸管理の知識 ３） ALS で人工呼吸療法を実施する療養者の在宅看護の事例展開 ４）小児の療養者に対する在宅療養の事例展開	5～9 回
第 10～14 回	４．成人期・高齢期にある在宅療養者の観察と看護 １）成人・高齢者の在宅療養生活全体をアセスメントする ２）がんを有する在宅療養者の理解と症状の観察、家族支援 大腸がんの事例：ストーマ管理、終末期（看取り） ３）成人期・高齢期にある在宅療養の困難事例 統合失調症を有する在宅療養者の理解と症状の観察、家族支援	10～11 回 12～15 回
第 15 回	筆記試験（60 分）　まとめ（30 分）	

自己学習	在宅看護対象論・援助論Ⅰの内容を復習して臨む。 小児看護学、成人看護学、老年看護学、精神看護学の内容を復習して望む
テキスト	新看護観察のキーポイントシリーズ　在宅看護 系統看護学講座　在宅看護論
参考図書	みんないきいき介護保険（金沢市パンフレット）
評価方法	筆記試験、レポート課題 （1～4・10～11 回 45%、5～9 回 35%、12～15 回 20%）
備考	

備考				
分野	**授 業 科 目 名**	**単位数**	**開講時期**	**担 当 講 師**
統合分野	在宅看護論　在宅援助論Ⅲ	1 **時間数** 30	2 学年 2 学期	専任教員（保健師） 非常勤講師（看護師）
授業概要	訪問看護導入のプロセスと在宅療養者および家族との信頼関係成立の方法について、在宅ならではの医療処置に伴う援助の場面のロールプレイを通して理解する。			
授業目標	1． 事例を通して、在宅における看護の特徴が理解できる。 1）対象の 4 側面の特徴を捉え、生活の継続、生活の質が維持向上に対する課題を捉える 2）訪問時間内に複数の課題解決の援助が優先順位、対象の思いを考えて行われていることがわかる。 2.療養者体験を通して、身体・精神的な思いを伝える （キーワード：自己決定・同意、信頼関係）			
回数	**授 業 内 容**			**担当者**
第 1～8 回	1．在宅看護過程展開 ・ＡＬＳ（人工呼吸器装着）・小児（人工呼吸器）・パーキンソン病 ・脳梗塞（左片麻痺、胃瘻、尿道留置カテーテル）　・終末期（癌） 上記いずれかで行う 2．事例の看護問題・目標・ある１日の看護について発表・意見交換 3．家庭にある物品での日常生活援助 1）ペットボトルを利用した洗浄ボトルを使った日常生活援助 胃瘻の洗浄、創部の洗浄、洗髪、陰部洗浄 2）決められた訪問時間内の使い方 4．演習を通して、学んだこと、意見交換			第 1～8 回
第 9～15 回	5．脳梗塞で左片麻痺、左外踝に褥瘡がある療養者への訪問看護 バイタル測定、オムツ交換、褥瘡処置の場面のロールプレイング 6．事例場面の訪問看護計画を立案 ・初回訪問場面　　・退院前カンファレンス場面 ・指導場面　　・緊急時対応 7．事例場面の訪問をロールプレイング・意見交換 8．　困難事例			第 9～15 回
自己学習	これまでの学習を統合して考える。（疾患・制度・場の特徴）			
テキスト	新看護観察のキーポイントシリーズ　在宅看護 系統看護学講座　在宅看護論			
参考図書	みんないきいき介護保険（金沢市パンフレット） 老年看護学②　高齢者看護の実践（メディカ出版） 系統看護学講座　脳・神経（医学書院）など			
評価方法	課題の取り組み状況、レポート、発表・意見交換等（1～8 回 60%、9～15 回 40%）			
備考				

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	看護の統合と実践 看護の実践Ⅰ	1 時間数 15	2学年 2学期	専任教員（看護師） 非常勤講師（看護師）

授業概要	災害に関する認識を深め、災害看護の基礎的知識を理解する。その上で災害訓練の体験を通して医療チームのメンバーとしての役割、被災者への医療や看護について考える。
授業目標	1．災害が人々の心身に及ぼす影響を理解する。 2．災害時に看護が果たす役割、災害時の看護支援活動について学習する。 3．災害時の救護活動に必要な技術を理解する。

回数	授 業 内 容	担当者
第1回	1．災害医療の概念 1）災害とは 2）災害の種類と特徴：自然災害　人為的災害　特殊災害　複合災害 3）災害時のマネジメント理論および要援助者の考え方 4）災害における医療と法：災害医療の特徴　CSCATTT　災害対策基本法	第1回
第2回 第3回	5）情報の種類と活動（情報システムの変化） 2．災害医療における看護の役割 3．災害における被災者の特徴と看護実践 1）災害直後の被災者への援助 2）災害復興期における被災者への援助 3）復興支援の実際 4）在宅・地域との連携 5）罹災下における看護援助の工夫（稀少資源の活用） 6）災害時の救護活動に必要な技術 （1）トリアージ　（2）救命処置　（3）搬送 （4）安全対策（感染予防および事故防止）	第2～4回
第4回	4．災害医療におけるこころのケア 1）ＡＳＤ　ＰＴＳＤ　被災者のこころのケア 2）災害医療に携わる医療者自身のケア	
第5回 第6～8回	試験（45分） 5．災害サイクルにおける超急性期の看護について 1）災害訓練への参加（事前のオリエンテーション含む） 2）災害訓練・講義の振り返りグループワーク	第5～8回

自己学習	事前に学習内容に関して文献を用いて調べておく
テキスト	系統看護学講座　統合分野　「災害看護学・国際看護学」　医学書院
参考図書	ナーシンググラフィカ　災害看護　看護の統合と実践③　メディカ出版
評価方法	筆記試験60%（1回：20%・2～4回：40%）　事前・事後課題40%（第6～8回）
備考	災害訓練に必ず参加するものとする。
実務経験との関連	DMAT のメンバーとしての訓練経験に基づき、具体的な事例を用いた講義を行います。また、病院における災害訓練を活用し実践に即した学習を取り入れています。

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	看護の統合と実践 看護の実践Ⅱ	1 時間数 15	3 学年	専任教員（看護師） 非常勤講師（看護師）
授業概要	看護職としての役割を果たすために必要な看護管理の概念、看護組織、チーム医療等を理解し、質の高いケアの提供に向けて考えることができるようにする。将来の自己の看護師の姿をイメージできるように教授する。			
授業目標	1. 看護管理の概念を理解する。 2. 質の高いケアを提供するため看護組織が有効に機能するうえで必要な仕組みを学ぶ。 3. チーム医療のなかで協働しながら看護師としての役割を果たす意義を理解する。 4. 看護職として自己の能力を向上させる必要性を理解し、将来の自己の姿を考えることができるよう学ぶ。			

回数	授 業 内 容	担当者
第 1 回	1. 専門職業人としての基礎的能力 1)専門職の定義　2)看護専門職に関する基準と実際	第 1～3 回
第 2 回	2. 看護管理の概念 1）看護管理の定義　2）看護管理の基本的要素 3)マネジメントの変遷　4)マネジメントプロセス	
第 3 回	3. ケアのマネジメント 1）看護基準と看護手順　2）患者の権利の尊重 3）看護職および他職種との協働　4）日常ケアのマネジメント	
第 4 回	4. 看護サービスのマネジメント 1）理念の形成と浸透　2）看護の組織化 3）看護ケアの提供システム 4）人事労務管理　5）物的資源管理	第 4 回
第 5 回	5. 看護の質の保証と看護管理 1）看護実践の評価と改善　2）ケアの質の評価	第 5～8 回
第 6 回	6. 看護師と教育 1）組織の看護の質を維持するための教育 2）キャリアとキャリア形成	
第 7 回	7. 看護に関する法令と今後の展望 1）看護職の定義と法的責任　2）看護師の役割拡大と課題 3）保健医療制度における看護ケア	
第 8 回	8. 試験	

自己学習	
テキスト	系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践①（医学書院）
参考図書	適宜提示
評価方法	筆記試験（40%）　課題の取り組みおよびレポート提出（60%）
備考	関連科目：看護学概論Ⅰ・Ⅱ
実務経験との関連	病院における認定看護管理者としての看護管理経験に基づき、具体的な事例を用いて講義を行います。

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	看護の統合と実践 看護の実践Ⅲ	1 時間数 15	2学年 2学期	非常勤講師（看護師）

授業概要	
授業目標	1. 看護・医療事故の概念および構造を理解することができる。 2. 人間の行動にあるヒューマンエラーの可能性およびそのエラーを最小にするためのシステムおよび方法が分かる。 3. 看護・医療事故の危険因子を総合的に判断し、予防・回避するための取組み方法がわかる。 4. 対象の権利を尊重し、安全を保障するための看護者としての責任と義務がわかる。

回数	授 業 内 容	担当者
第1・2回	1. 医療事故の種類と安全対策および看護師としての責務 1）医療・看護における医療安全とリスクマネジメントの動向 2）看護・医療事故の中で多い事故の実態 3）組織的な自己防止体制の重要性 4）医療事故予防のためのアサーティブ能力 5）看護における倫理的意思決定	第1回 ～6回
第3回	2. 人間の行動特性とヒューマンエラーの概念 1）人間の認知機能のメカニズム　2）人間の行動の不確実性 3）ヒューマンエラーの概念とメカニズム　4）エラーの要因 5）自己モニタリングと自己コントロール　6）事故を起こしやすい看護師の行動特性	
第4回 ～ 第6回	3. 医療事故防止の考え方とその対策 1)危険に関する情報収集と危険因子の査定 2）危険の予測 （危険予知トレーニング演習） 3）危険を回避した看護実践とその評価 4)ヒヤリハット体験の分析と共有化 5）事故事例による分析の手順（要因分析の方法演習） 6）医療事故と事故後の対応	
第7回	4. 基本的な医療関連感染対策 1）感染管理とは(関連法律も含む) 2）感染症発生時の感染拡大防止の実際	第7回 第8回
第8回	5. 試験　（45分）	

自己学習	
テキスト	ナーシンググラフィカ　　医療安全　第3版
参考図書	適宜提示
評価方法	筆記試験（1～6回：85%，7回：15%）
備考	

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	看護の統合と実践 看護の実践Ⅳ	1 時間数 30	3 学年	専任教員（看護師）
授業概要	看護学生としてケーススタディをまとめることの意義を念頭に、自己の実習での体験をケーススタディの論文として系統的にまとめていく。 自ら問題意識を持ったテーマについて、文献検索し、担当教員に計画的に指導を受け、論文・抄録完成する。その後、全体の場で発表し質問意見・講評を体験する。			
授業目標	１．看護の実践体験を系統的にまとめ、看護に対する考えを深める。			

回数	授 業 内 容	担当者
第１回	1. 看護のおける研究の意味	
第２回	2. 研究の種類と特徴	
第３回	3. ケーススタディの概念・意義、研究のプロセス	
第４回	4. テーマの設定	
第５回	5. 文献検討の実際	
第６回	6. 文献を活用した支援の検討	
第７回	7. 引用文献の用い方	
第８回	8. 研究計画書の作成	
第９回	9. 論文のまとめ方	
第 10 回	10. 抄録のまとめ方	
第 11 回	11. 発表原稿のまとめ方	
第 12 回	12. 発表に効果的なスライド	
第 13～15 回	ケーススタディ発表・評価	

自己学習	理論の復習をしておく。 実習で直面した課題を書きとめておくとよい。 実習中も自身の疑問や課題について文献検索していく。
テキスト	わかりやすいケーススタディの進め方　照林社
参考図書	ナーシンググラフィカ⑲　基礎看護学　看護研究（メディカ出版） 看護学生のためのケーススタディ　第３版　メジカルフレンド社 看護研究のための文献検索ガイド第３版　　日本看護協会出版会
評価方法	論文（87%）　発表（13%）
備考	
実務経験との関連	病院における看護実践に基づく論文発表の経験に基づき、学生が臨地実習で経験した事例について、論文としてまとめることができるように講義・演習を行います。

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	看護の統合と実践 看護の実践Ⅴ	1 **時間数** 30	3 学年 2 学期	専任教員（看護師）
授業概要	看護職が対象者に責任をもってケアを提供するためには看護ケアのマネジメントが必要となる。看護ケアをマネジメントすることは、対象者に必要なケアが効率的かつ効果的に提供されるようにケアを調整し、連携をはかり、評価することである。それを実践するには、その業務が職務として適切かどうか判断し、看護の質を保証するために看護基準や手順を活用し、多重課題のなかでも日常業務が遂行できるマネジメントを学ぶ。			
授業目標	1. 1 人の対象者の必要な情報を収集し、アセスメントすることにより充分な対象理解をし、対象者の状態に応じた看護を考えることができる 2. 看護業務遂行のために 1 日の業務の組み立てができる 3. 業務の中で 1 人ではできないものや連携・調整、分担の必要がある場合には、タイムマネジメントを行い、スケジュールの作成や優先順位の決定を行うことができる 4. 同時に複数の課題が重なる多重課題に対応するために、限られた時間や切迫した状況の中で、対象者の安全を配慮して、優先順位を判断し、行動することができる 5. 状況に応じて報告･連絡･相談を実施し、医療チームの一員として連携しながら、自己の看護を振り返り、今後に備えることができる 4. 演習を通して、自己の特性や傾向、看護における課題を明確にできる			

回数	授 業 内 容	担当者
第 1 回	ガイダンス　看護学生の実習記録･診療報酬の取り扱いに関する注意事項と安全に実習を進めるためにとる行動	
第 2 回	必要な情報を収集し対象者の状況に応じた看護を考える（SOAP 記録の確認）	
第 3 回	一人の患者の対象理解と安全の判断（演習）	
第 4 回	一人の患者の対象理解と優先度の判断（演習）	
第 5 回	一人の患者の対象理解と倫理的判断（演習）	
第 6 回	看護のマネジメントとは　日常業務のマネジメント：タイムマネジメント	
第 7 回	優先順位の決定と多重課題への対応	
第 8 回	朝のラウンドの優先順位を考える　何のために報告するのか　看護倫理	
第 9 回	朝のラウンドの優先順位の決定と対応（演習）	
第 10 回	同時に複数の課題が重なる多重課題への対応（演習）	
第 11 回	同時に複数の課題が重なる多重課題への対応（演習）	
第 12 回	絶対順位	
第 13 回	スキルトレーニング（演習）	
第 14 回	多重課題の中で急性増悪した患者への対応（演習）	
第 15 回:1/2	スペシャリストの時間管理の実際	
第 15 回:1/2	試験	

自己学習	演習前の事前準備
テキスト	系統別看護学講座　統合分野　「看護管理」　　＊参考書は適宜提示します
評価方法	課題の取り組み及びレポート（60%）・筆記試験（40%）
実務経験との関連	病院での看護経験を活かし、実践的な思考・判断に基づく行動ができるように事例を工夫し、講義・演習を行います。

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	在宅看護論実習	2 時間数 90	3 学年	専任教員（保健師）
授業概要	地域で療養し生活している対象を理解し、対象が在宅生活を継続する為の看護支援を学ぶ。訪問看護は、1 名の受け持ち療養者を含めた複数の療養者の訪問に同行し、療養者とその家族が地域で生活し続ける為の支援について学ぶ。地域包括支援センターでは、地域の高齢者の健康と安全な生活に向けての支援について学ぶ。居宅介護支援センターでは、要介護認定を受けた高齢者とその家族の健康と安全な生活に向けての支援について学ぶ。金沢医療センターは、地域医療連携室で働く職種と同行し、退院支援について学ぶ。			
	授 業 内 容			
	1. 地域で療養し生活している対象を生活者として捉える 2. 対象が在宅生活を継続していくために必要な支援を判断する 3. 対象が在宅生活を継続していくための支援を実施する 4. 対象のＱＯＬの維持・向上に向け必要な支援を実施する 5. 在宅は利用者の所有する場であることをふまえ責任ある行動がとれる 6. 保健医療福祉職種のチーム（ｲﾝﾌｫｰﾏﾙな人含む）で対象を支援していることを理解し、訪問看護師の役割について考えを深める 7. 対象を取り巻く保健医療福祉職種の役割を理解する 8. 多職種との連携・協働している実際から看護の役割についての考えを深める			
自己学習				
参考図書	在宅看護論実習要項参照			
評価方法	在宅看護論実習評価に準ずる			
備考				

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
統合分野	総合実習	2 時間数 ９０	3 学年 2 学期	専任教員（看護師）
授業概要	既習の知識･技術･態度を統合し、看護チームの一員として看護を実践する体験を通して、看護実践能力を高める。探求的学習姿勢を身につけ、職業人としての資質を養う。			
	授 業 内 容			
	1. 質の高い看護を提供するための看護管理のあり方を理解する。 2. 看護チームにおけるリーダー、メンバーの役割を理解し、メンバーとして自己の役割を果たす。 3. 対象の安全・安楽を最優先に考えた優先順位および時間管理を行う 4. 対象に思いを寄せた丁寧な支援を行う。 5. 対象に起こりうる危険を予測しながら看護実践する。 6. 看護専門職業人としてよりよい看護の探求のために研鑽し続ける。			
自己学習	実習要項参照			
参考図書	実習要項参照			
評価方法	総合実習評価に準ずる			
備考				

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
	政策医療看護論	1 時間数 30	1学年 2学期	専任教員（看護師） 非常勤講師
授業概要	国民一人ひとりの健康とわが国の医療の向上のために、国立病院機構は役割を担っている。全国の 141 の病院のネットワークを展開し、セーフティネットとして医療の充実を図っている。国民の健康を守るための 19 分野や、先進的な医療や、難治性の病気に対して行われている国立病院機構が実践している医療とその看護を学ぶ。			
授業目標	１．国立病院機構が担う政策医療の内容と行われている看護の特徴を学ぶ。 ２．重症心身障がい児（者）・神経難病患者・筋ジストロフィー患者・結核感染症患者への日常生活の基本的な援助方法を理解する。			

回数	授 業 内 容	担当者
第１回	ガイダンス	
第２回	1. 国立病院機構の役割と機能 1)日本の医療・看護の動向 2)医療政策と国立病院・療養所が果たしてきた役割と動向 （政策としてのがん看護を含む） 3)看護教育に果たしてきた役割と動向	
	2. 国立病院機構における政策医療と看護の特徴 1) 政策医療としての１９分野の医療と看護の意義 (1) 高度先駆的医療とその看護 (2) 精神障害、アルコール (3) 薬物依存状況にある人への社会復帰を支える医療と看護 (4) ハイリスクの母児総合医療	
第３回	2) 政策医療としてのがん治療・看護 (1) 政策医療におけるがん治療 (2) 先端のがん治療における看護の動向 (3) 専門看護師･認定看護師のがん看護における役割と機能	
第４回	3) がん化学療法患者の看護マネジメント (1) インフォームド･コンセントの自己決定への支援 (2) がん化学療法を受ける患者へのセルフケア支援	
第５回	4) 結核患者の治療・看護の特徴 (1) 結核医療の変化 (2) 薬物療法の適応 (3) 感染経路と予防	
第６回	(4) 結核患者への看護 入院中～在宅療養に向けての看護 他職種との連携、服薬指導、感染予防	

回数	授 業 内 容	担当者
第 7･8 回 第 9･10 回 第 11･12 回 第 13･14 回 第 15 回	5）重症心身障がい児（者）の治療・看護の特徴 (1) 重症心身障がい児（者）医療の歴史的変遷と患者を取り巻く現状 (2) 重症心身障がい児（者）の療育の特徴 (3) 家族への心理的アプローチ (4) 在宅療養に向けた援助 (5)重症心身障がい児（者）の看護 ① 身体拘縮･変形のある患者の日常生活支援（食事、排泄、清潔、移動） ② ポジショニング、リラクゼーション ③ 肺理学療法 ④ QOL 向上のための支援 ⑤ コミュニケーション技術 ⑥ 安全対策（感染予防・事故防止） ⑦ 在宅療養に向けたケアマネジメント 6) 神経･筋疾患患者の治療・看護の特徴 (1) 神経･筋疾患医療の歴史的変遷と患者を取り巻く現状 (2) 主な症状と看護の特徴 (3) 在宅療養に向けた援助 (4) 神経･筋疾患患者への看護技術 ① 筋力の低下･神経障害のある患者の日常生活援助（食事、排泄、清潔、移動） ② 障害を受け止めるプロセスに応じた援助 ③ 機能維持･向上のための援助 ④ 人工呼吸器装着中の看護 ⑤ 肺理学療法 ⑥ QOL 向上のための支援 ⑦ コミュニケーション技術 ⑧ 安全対策（感染予防・事故防止） ⑨ 在宅療養に向けたケアマネジメント 政策医療と看護のまとめ（前半、後半に各１H）	
自己学習		
テキスト	なし	
参考図書	国民衛生の動向	
評価方法	レポート課題	
備考	専門性が高い領域であるが、画像を踏まえ政策医療、セーフティネットの概念を確認する。政策医療看護研修、各論実習につながる重要なオムニバスの講義である。	

分野	授 業 科 目 名	単位数	開講時期	担 当 講 師
	政策医療看護論研修	時間数 40	2 学年 1 学期	専任教員（看護師） 各施設担当者
授業概要	国立病院機構が担う政策医療の内容と行われている看護の実際を見学、一部体験して理解を深める。			
	授 業 内 容			
	1. 重症心身障がい児（者）・神経難病患者・筋ジストロフィ患者・結核感染症患患者への日常生活援助の実際を見学、一部体験して理解を深める。 1) 重症心身障がい児（者）の看護の実際 (1) 身体の拘縮・変形のある患者の日常生活援助の実際 (2) ポジショニング・リラクゼーション (3) 療育 (4) 安全対策 (5) コミュニケーションの実際 (6) 在宅療養に向けたマネジメントの実際 2) 神経難病・筋ジストロフィ患者の看護の実際 (1) 筋力の低下・神経障害のある患者の日常生活援助の実際 (2) 機能維持・向上のための援助 (3) 人工呼吸器装着中の看護 (4) 安全対策 3) 結核感染症患者の看護の実際 (1) 感染経路と予防 (2) N95 マスクの装着 (3) 病棟設備(陰圧システム、排痰ブース) (4) 薬物療法の実際 4) 医療観察法病棟の看護の実際			
自己学習	政策医療看護論の講義内容を復習して臨む			
テキスト	政策医療看護論の講義での資料			
参考図書	八代博子　写真でわかる重度心身障がい児（者）のケア　人としての尊厳を守る療育のために（インターメディカ）＊電子書籍			
備考	重症心身障がい児（者）施設（2 日間）　神経難病・筋ジストロフィ患者・結核患者施設（1 日）医療観察法病棟（半日）			